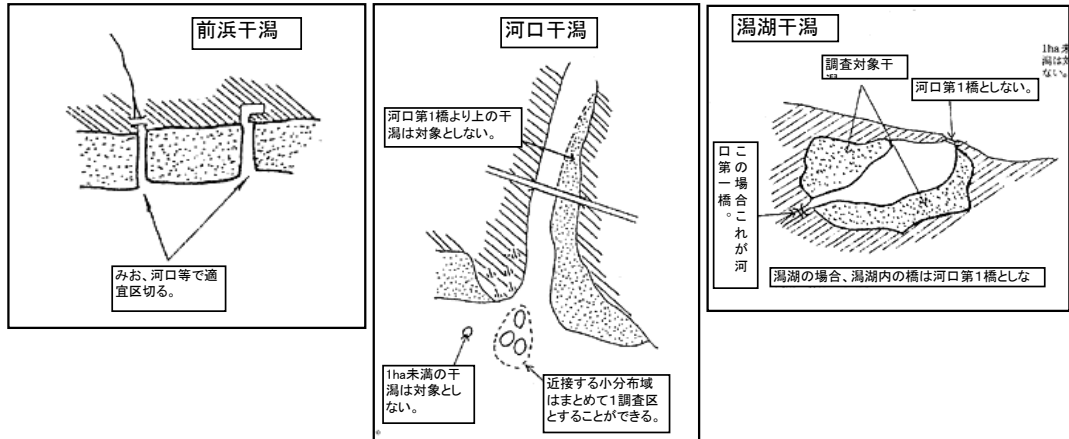


- 注1)対象干潟 ・高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上であること。
 ・大潮時の連続した干出域の面積が1ha以上であること。
 ・移動しやすい底質(砂、礫、砂泥、泥)であること。
- 注2)干潟タイプ 下図のとおり前浜干潟、河口干潟、潟湖干潟及びその他(人工干潟等)に分類される。
- 注3)調査区設定方法

現在干潟の調査区設定・面積等の把握の際には、原則同タイプの干潟が連続的に分布する範囲(分布域)を1調査区とする。ただし、分布域が長大な場合は河口、みお、航路、岬角等の地形で適宜区分することができる。各タイプの調査区設定は区分基準(下図のカッコ内)に準ずる。



- 注4)底質: 礫: 粒径2mm以上
 砂: 0.1~2mm
 泥: 0.1mm以下
 砂泥: 砂と泥の混合

出典: 環境省 第5回自然環境保全基礎調査

表 3 (1) 主要な藻場の概要

対象海域 名称	都道府県	藻場名称	藻場タイプ								疎密度	面積 (ha)	
			アマモ 場	ガラモ 場	コンブ 場	アラメ 場	ワカメ 場	テング サ場	アオ サ・ア オノリ 場	その 他			不明
備讃瀬戸	岡山県	外浦	○	○					○			密生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	王泊	○									疎生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	高島		○				○				疎生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	白石北		○				○				密生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	モッコク		○				○				密生	4.0
備讃瀬戸	岡山県	小山		○				○				密生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	乳石		○				○				密生	4.0
備讃瀬戸	岡山県	高山鼻		○				○	○			密生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	大宇根		○				○		○		密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	小飛島		○			○	○				密生	7.0
備讃瀬戸	岡山県	立髪		○			○	○				密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	ハブ島		○			○					濃生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	六島		○			○	○				密生	4.0
備讃瀬戸	岡山県	カナリア島		○				○				濃生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	梶子島		○								濃生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	王子が岳		○				○	○			濃生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	田ノ口	○									密生	9.0
備讃瀬戸	岡山県	雁山岬	○									濃生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	琴浦	○									疎生	12.0
備讃瀬戸	岡山県	下の町	○									濃生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	小川町	○									密生	5.0
備讃瀬戸	岡山県	高州	○	○				○				密生	52.0
備讃瀬戸	岡山県	じんば	○									密生	32.0
備讃瀬戸	岡山県	沖藻	○									密生	98.0
備讃瀬戸	岡山県	沖藻	○									密生	18.0
備讃瀬戸	岡山県	沖藻	○									密生	73.0
備讃瀬戸	岡山県	元浜	○									濃生	14.0
備讃瀬戸	岡山県	急須美鼻		○					○			密生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	釜島		○				○	○			密生	7.0
備讃瀬戸	岡山県	釜島	○	○				○				密生	11.0
備讃瀬戸	岡山県	釜島		○			○	○				密生	4.0
備讃瀬戸	岡山県	松島		○				○	○			密生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	燈籠崎		○				○	○			濃生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	高室		○				○				密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	湊岬		○				○	○			密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	宮ノ浜		○				○				密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	葛島		○				○	○			密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	上濃地		○			○	○	○			濃生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	太濃地		○			○	○	○			濃生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	細濃地		○			○	○	○			濃生	4.0
備讃瀬戸	岡山県	六口島		○			○	○	○			密生	6.0
備讃瀬戸	岡山県	牛ノ首		○				○				密生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	上水島		○				○	○			密生	7.0
備讃瀬戸	岡山県	下水島		○				○				密生	6.0
備讃瀬戸	岡山県	杓島		○				○				密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	長浜	○	○				○		○		疎生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	北木布越		○								濃生	5.0
備讃瀬戸	岡山県	野島鼻		○								密生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	大島		○			○	○				濃生	7.0
備讃瀬戸	岡山県	茂床島		○			○	○	○			濃生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	数珠石		○			○	○				濃生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	真鍋島		○			○	○	○			濃生	9.0
備讃瀬戸	岡山県	間島		○			○	○				濃生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	ヘラガ崎		○				○				密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	中藻	○	○				○		○		疎生	80.0
備讃瀬戸	岡山県	沖藻	○									濃生	26.0
備讃瀬戸	岡山県	大敷	○									疎生	7.0
備讃瀬戸	岡山県	高辺鼻		○				○				疎生	2.0
備讃瀬戸	岡山県	蛸崎鼻		○								密生	3.0
備讃瀬戸	岡山県	松が鼻	○									密生	8.0

表 3 (2) 主要な藻場の概要

対象海域 名称	都道府県	藻場名称	藻場タイプ								疎密度	面積 (ha)		
			アマモ 場	ガラモ 場	コンブ 場	アラメ 場	ワカメ 場	テング サ場	アオ サ・ア オノリ 場	その 他			不明	
備讃瀬戸	岡山県	日比		○				○					密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	鼻操鼻		○				○					密生	1.0
備讃瀬戸	岡山県	矢出が鼻		○				○					不明	10.0
備讃瀬戸	岡山県	大植島		○				○					濃生	5.0
備讃瀬戸	広島県	袴島		○									濃生	1.0
備讃瀬戸	広島県	袴島		○									濃生	1.6
備讃瀬戸	広島県	白茅		○									疎生	1.6
備讃瀬戸	広島県	御幸町		○									疎生	1.4
備讃瀬戸	広島県	仙酔島		○									密生	2.4
備讃瀬戸	広島県	仙酔島		○									濃生	1.2
備讃瀬戸	広島県	仙酔島		○									濃生	1.9
備讃瀬戸	広島県	つつじ島		○									濃生	1.1
備讃瀬戸	広島県	皇后島		○									密生	1.0
備讃瀬戸	広島県	玉津島		○									密生	3.0
備讃瀬戸	広島県	加治屋島		○									密生	1.8
備讃瀬戸	広島県	走島(浜)		○									濃生	2.0
備讃瀬戸	広島県	走島		○									濃生	3.9
備讃瀬戸	広島県	走島		○									濃生	2.6
備讃瀬戸	広島県	走島(唐船)		○									濃生	1.0
備讃瀬戸	広島県	走島		○									密生	1.0
備讃瀬戸	広島県	走島(唐船)		○									密生	1.8
備讃瀬戸	広島県	走島(ギボシ)	○										疎生	1.0
備讃瀬戸	広島県	走島(ギボシ)		○									密生	1.2
備讃瀬戸	広島県	宇治島		○									濃生	1.4
備讃瀬戸	広島県	宇治島		○									疎生	1.1
備讃瀬戸	広島県	宇治島		○									濃生	4.2
備讃瀬戸	広島県	後地		○									疎生	3.0
備讃瀬戸	香川県	黒崎		○									疎生	2.2
備讃瀬戸	香川県	伊砂子		○									疎生	2.0
備讃瀬戸	香川県	船越	○										疎生	1.2
備讃瀬戸	香川県	香田		○									疎生	3.0
備讃瀬戸	香川県	新浜		○									疎生	2.2
備讃瀬戸	香川県	戸崎		○									疎生	1.5
備讃瀬戸	香川県	水出	○										疎生	1.0
備讃瀬戸	香川県	津島	○										疎生	6.0
備讃瀬戸	香川県	見立	○										濃生	6.4
備讃瀬戸	香川県	箱②		○									密生	3.0
備讃瀬戸	香川県	箱①	○										疎生	2.0
備讃瀬戸	香川県	新田		○									疎生	1.8
備讃瀬戸	香川県	姫路		○									密生	1.4
備讃瀬戸	香川県	西浜	○										密生	1.5
備讃瀬戸	香川県	阿島		○									密生	2.0
備讃瀬戸	香川県	佐柳島西岸		○									密生	7.6
備讃瀬戸	香川県	東浜	○										密生	6.0
備讃瀬戸	香川県	京ノ浜		○									密生	1.4
備讃瀬戸	香川県	不天ノ洲		○									密生	1.8
備讃瀬戸	香川県	中新田	○										密生	1.0
備讃瀬戸	香川県	下新田	○										密生	2.5
備讃瀬戸	香川県	佐柳島東	○										密生	112.0
備讃瀬戸	香川県	小島南岸		○									密生	2.0
備讃瀬戸	香川県	高見島西岸	○										疎生	1.0
備讃瀬戸	香川県	高見島北岸		○									濃生	3.0
備讃瀬戸	香川県	高見島東	○										濃生	117.6
備讃瀬戸	香川県	高見島南岸		○									密生	2.1
備讃瀬戸	香川県	志々島		○									密生	2.2
備讃瀬戸	香川県	志々島南		○									濃生	1.1
備讃瀬戸	香川県	海岸寺	○										濃生	6.0
備讃瀬戸	香川県	海岸寺沖		○									疎生	5.0
備讃瀬戸	香川県	白方海岸	○										濃生	1.0
備讃瀬戸	香川県	東白方		○									密生	1.3

表 3 (3) 主要な藻場の概要

対象海域 名称	都道府県	藻場名称	藻場タイプ								疎密度	面積 (ha)	
			アマモ 場	ガラモ 場	コンブ 場	アラメ 場	ワカメ 場	テング サ場	アオ サ・ア オノリ 場	その 他			不明
備讃瀬戸	香川県	蓬萊町北岸		○								疎生	2.6
備讃瀬戸	香川県	富士見町東沖	○									濃生	3.0
備讃瀬戸	香川県	土器町埋立	○									密生	40.0
備讃瀬戸	香川県	上真島東沖	○									疎生	3.2
備讃瀬戸	香川県	新北町	○									疎生	2.0
備讃瀬戸	香川県	朝日町五丁目	○									疎生	1.0
備讃瀬戸	香川県	浦生南岸	○									密生	8.0
備讃瀬戸	香川県	浦生北岸		○								濃生	1.5
備讃瀬戸	香川県	長崎鼻		○								濃生	1.2
備讃瀬戸	香川県	女木島南岸						○				濃生	3.0
備讃瀬戸	香川県	女木島西岸						○				濃生	1.0
備讃瀬戸	香川県	女木島北岸						○				濃生	1.4
備讃瀬戸	香川県	女木島東岸	○									濃生	6.0
備讃瀬戸	香川県	女木島東浦						○				密生	1.5
備讃瀬戸	香川県	女木島東沖	○									密生	70.0
備讃瀬戸	香川県	男木島						○				濃生	2.3
備讃瀬戸	香川県	積浦		○								密生	1.5
備讃瀬戸	香川県	琴反地		○								密生	1.0
備讃瀬戸	香川県	柏島						○				密生	2.0
備讃瀬戸	香川県	向島西岸	○									疎生	10.0
備讃瀬戸	香川県	向島東岸						○				密生	1.1
備讃瀬戸	香川県	家島北東岸		○								疎生	1.0
備讃瀬戸	香川県	井島西岸		○								疎生	4.4
備讃瀬戸	香川県	井島北東岸		○								密生	2.1
備讃瀬戸	香川県	神子ヶ浜	○									疎生	1.4
備讃瀬戸	香川県	礼田崎		○								密生	2.2
合計													1,128.4

注1)対象藻場 ・面積が1ha以上であること。
・水深が10m以浅に分布すること。

注2)藻場タイプ アマモ場:アマモ、コアマモ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ガラモ場:ホンダワラ類・ウミトラノオ等が代表種(優占種)となっている藻場。
アラメ場:アラメ・カジメ・クロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ワカメ場:ワカメ・ヒロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。

注3)疎密度: 濃生:海底面がほとんど植生で覆われている。
密生:海底面より植生の方が多い。
疎生:植生より海底面の方が多い。

出典:環境省 第5回自然環境保全基礎調査

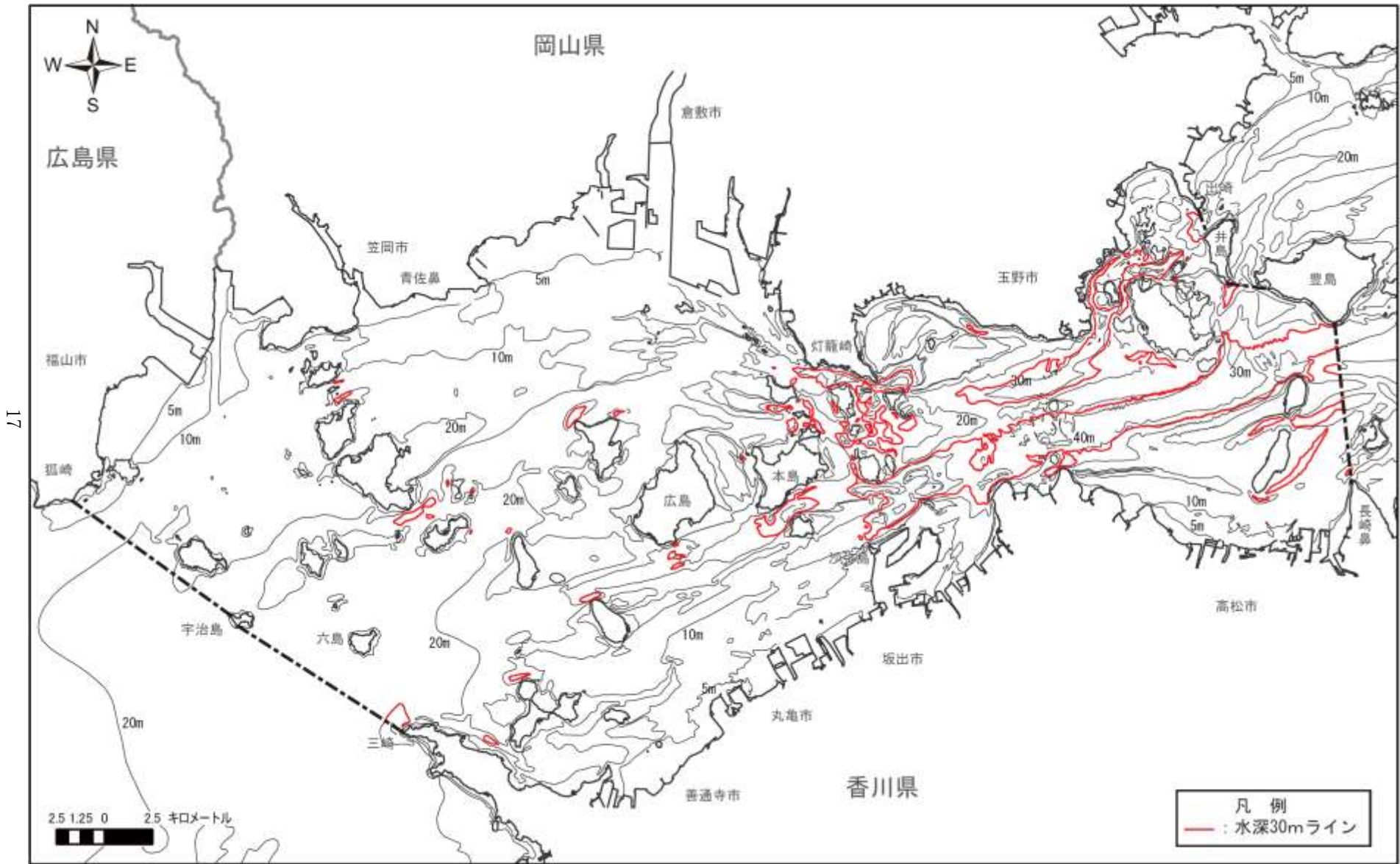
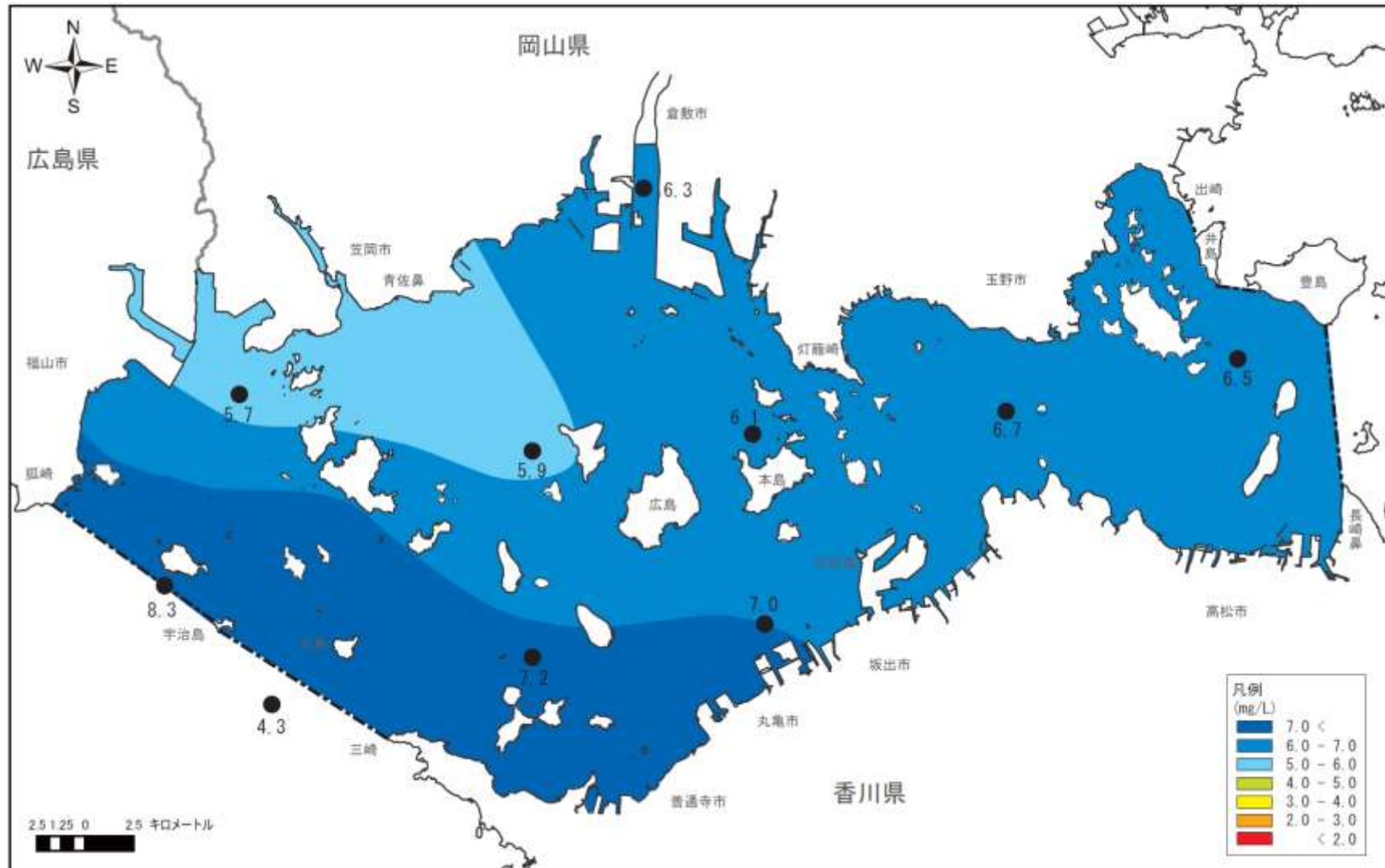


図 8 主な浅場



※平成19～21年の夏季底層DOのうち、DO濃度分布が最も悪化した平成20年を掲載した。

出典：環境省広域総合水質調査結果

図9 夏季底層DO（平成20年）

表 4 主要魚介類の選定結果

①瀬戸内海における主な魚介類	②周年定住種	③備讃瀬戸における漁獲量上位種	④保護水面対象種	⑤産卵場・成育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	⑥選定結果	選定理由
魚類			保護水面あり(対象種：藻場・水産動植物)			
イカナゴ	○	○				
コノシロ	○	○				
マコガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
イシガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
メイトガレイ	○	○				
ヒラメ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
タマガンゾウビラメ						
イヌノシタ						
クロダイ	○	○				
マダイ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
ヘダイ		○				
イボダイ	○					
スズキ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
アカカマス						
イサキ						
シイラ						
ニベ	○	○				
シログチ	○	○				
ペラ	○					
カサゴ	○			○		
メバル	○			○		
アイナメ	○					
トカゲエソ	○					
マエソ						
サワラ	○	○				
マナガツオ						
カタクチイワシ(シラス)		○				
タチウオ						
マサバ						
マアジ		○				
マルアジ						
ブリ						
マイワシ						
ハモ						
マアナゴ		○				
ウナギ						
ボラ		○				
カワハギ						
トラフグ	○	○				
シロザメ						
アカエイ						
マダコ	○	○				
イイダコ	○	○				
テナガダコ	○	○				
コウイカ	○	○				
スルメイカ						
イカ・タコ類						
ガザミ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
シヤコ	○					
エビ・カニ類						
クルマエビ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
アカエビ	○					
キシエビ						
ヨシエビ	○					
貝類						
アサリ	○			○		
アカガイ	○					
サルボウ	○			○		
タイラギ	○					
トリガイ	○					
バカガイ	○			○		
ハマグリ	○			○		
マテガイ	○					
サザエ	○			○		
棘皮類						
マナコ	○	○				

①主な魚介類：以下の文献により抽出した。
 「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら, 1996）」
 「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編, 1997）」
 「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編, 1985）」
 ②周年定住種：以下の文献を参考に判断した。
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（財）海洋生物研究所, 1991
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（財）海洋生物研究所, 1991
 新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克, 1998）
 水産生物の生活史と生態（社）日本水産資源保護協会, 1985
 水産生物の生活史と生態（続）（社）日本水産資源保護協会, 1986
 水生生物生態資料（社）日本水産資源保護協会, 1981
 水生生物生態資料（続）（社）日本水産資源保護協会, 1983
 ③漁獲量上位種：②の魚種のうち、「瀬戸内海及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。
 ④保護水面対象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。
 ⑤産卵場・成育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種
 魚介類の生態特性により、産卵場あるいは成育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。
 ⑥選定結果：②～⑤全ての項目に該当する魚介類。

表 5 主要魚介類（7種）の生態特性

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)											
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
スズキ	分離浮性卵	表層	岩礁域(外海水の影響を受ける水深50~80m)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(沿岸域)(仔魚後期はアマモ場・河口域周辺に移動する)	底性生活				稚魚期(体長12~60mmまで)								河川域:稚魚期(体長12~60mmまで)
		表層下-10m																
		11-20m																
		21-30m																
		31-40m																
		41-50m																
51m~																		
マコガレイ	付着沈性卵	表層	沿岸域(水深10~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	海底塊状粘着	浮遊生活(変態期まで)(水深10m前後)	底性生活(30m以浅)		稚魚(30m以浅)	稚魚(30m以浅)	稚魚(30m以浅)								
		表層下-10m																
		11-20m																
		21-30m																
		31-40m																
		41-50m																
51m~																		
イシガレイ	分離浮性卵	表層	内湾(水深30m以浅の泥質域)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活から底性生活へ移行(仔魚期変態期以降)	底性生活(10m以浅の浅所)		稚魚期(10m以浅の浅所)	稚魚期(10m以浅の浅所)									
		表層下-10m																
		11-20m																
		21-30m																
		31-40m																
		41-50m																
51m~																		
ヒラメ	分離浮性卵	表層	沿岸域(砂泥・砂礫・岩礁)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(変態期まで)(表層~中層20mに多く分布)	底性生活(10m以浅)		稚魚(10m以浅)										
		表層下-10m																
		11-20m																
		21-30m																
		31-40m																
		41-50m																
51m~																		

:分布域
 :分布域(水深情報不足)

表 5 (2) 主要魚介類 (7 種) の生態特性

■ : 分布域
 □ : 分布域(水深情報不足)

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)												
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他	
マダイ	分離浮性卵 産卵期: 5~7月 稚魚期: 夏季~秋季	表層	岩礁域(水深30~100m)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(仔魚後期: 水深10m前後)	底生生活(水深20m以浅)			稚魚(水深20m以浅)	稚魚(水深20m以浅)									
		表層下-10m																	
		11-20m																	
		21-30m																	
		31-40m																	
		41-50m																	
51m~																			
クルマエビ	浮性卵	表層	砂泥域					干潟(25m以浅)	砂泥域(25m以浅)										
		表層下-10m																	
		11-20m																	
		21-30m																	
		31-40m																	
		41-50m																	
51m~																			
ガザミ	浮性卵	表層	砂泥域					砂泥域(10m以浅)	砂泥域(10m以浅)										河口域(10m以浅)
		表層下-10m																	
		11-20m																	
		21-30m																	
		31-40m																	
		41-50m																	
51m~																			

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編) ((財)海洋生物研究所,1991)
 新版魚類学(下)改訂版 (落合明・田中克,1998)
 水産生物の生活史と生態 ((社)日本水産資源保護協会,1985)

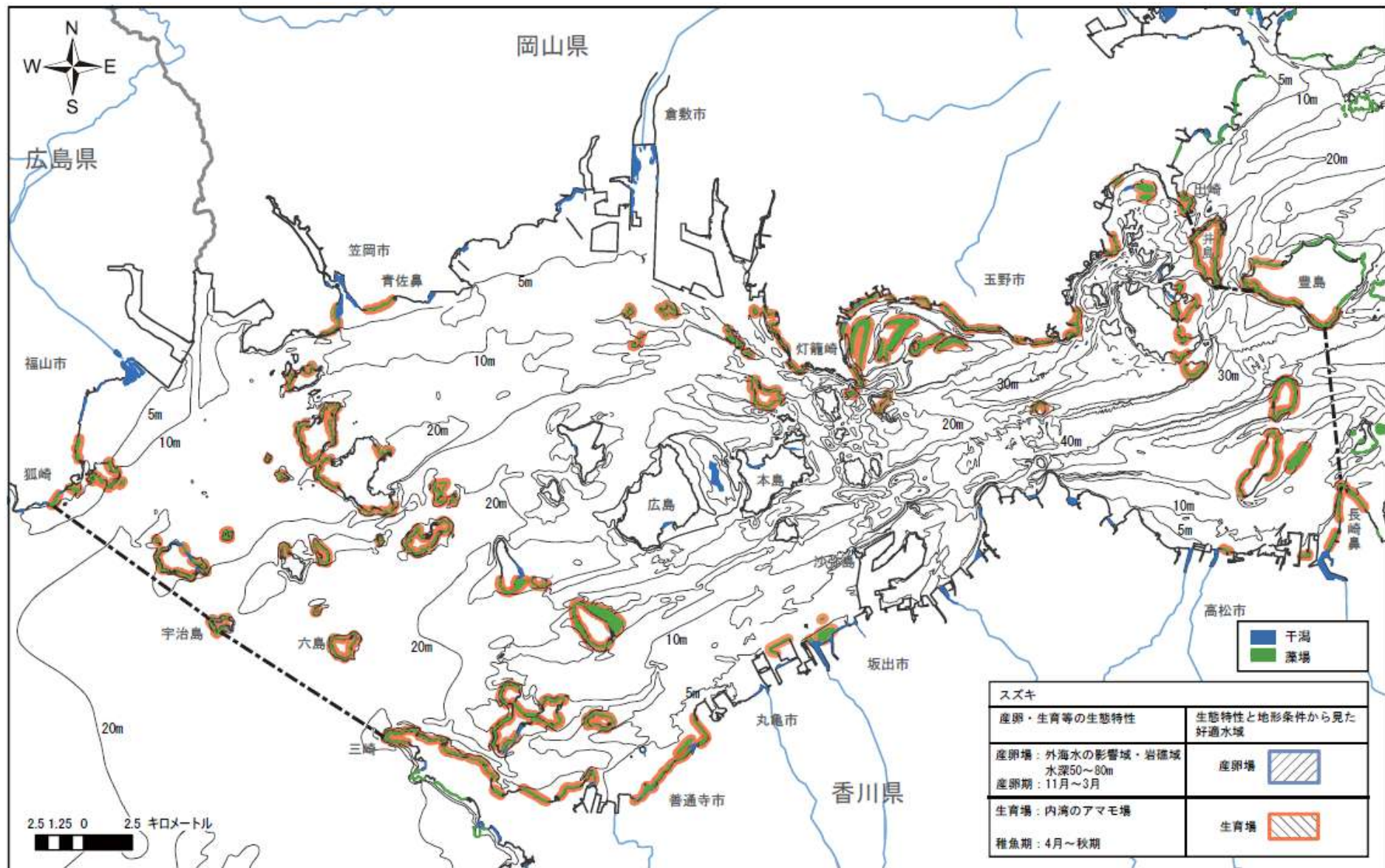


図 10 (1) スズキの生態特性・海域の地理条件・水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

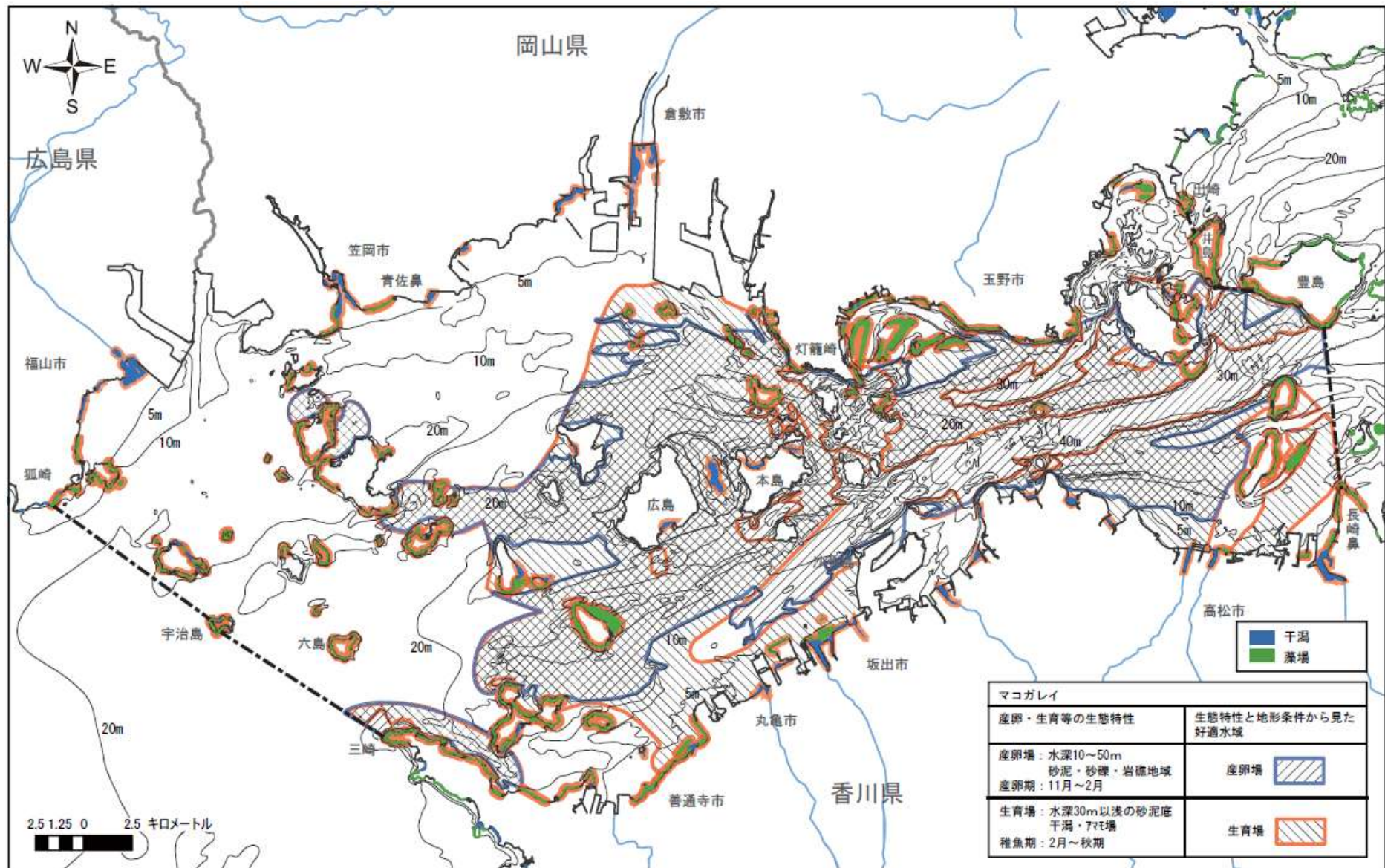


図 10 (2) マコガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

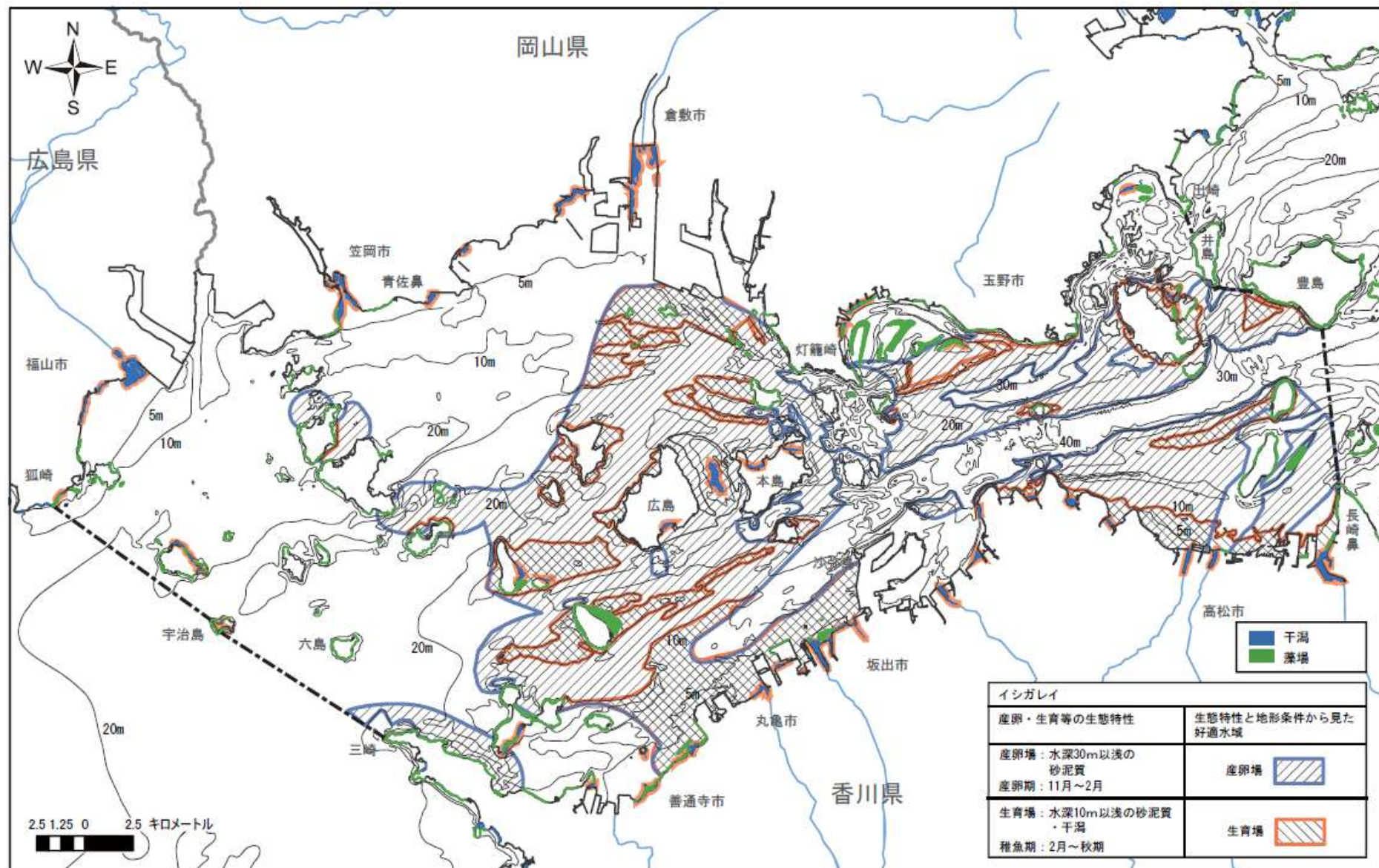


図 10 (3) イシガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

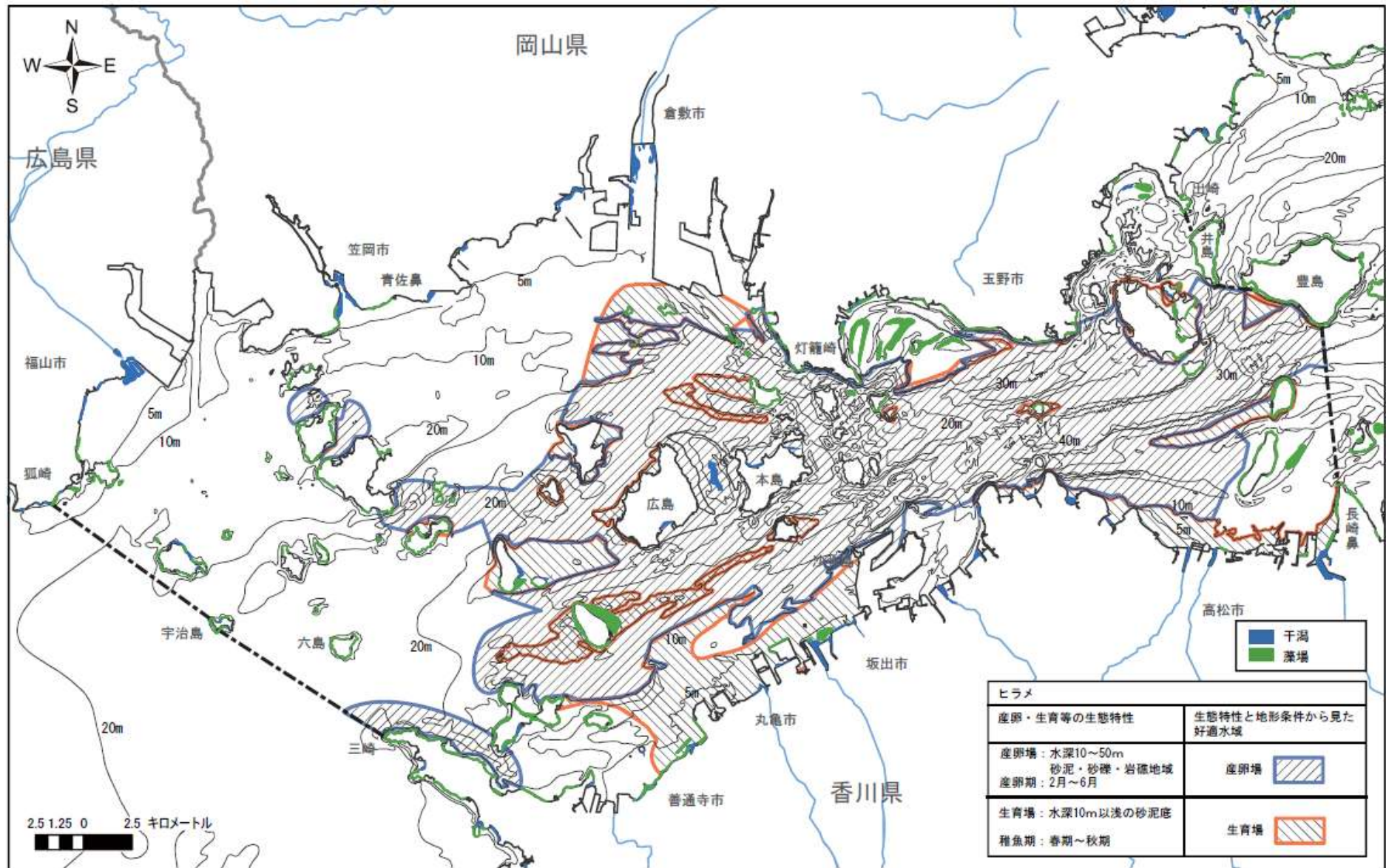


図 10 (4) ヒラメの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）